

2014年12月期 第2四半期決算説明会における主な質疑応答内容

(2014年11月4日(火)、東京)

- Q1. 第2四半期の増益に、生産性の改善はどの程度寄与しているか
- A1. 韓国の新工場（液晶用基板ガラス）は、国内工場よりも約2割生産性が改善しており、これが最も大きく寄与しています。また、円安による為替差益が経常利益を押し上げました。
- Q2. 第2四半期の増益は、韓国と国内どちらの生産性改善の効果が大きかったか
- A2. 約6割が韓国新工場の生産効率改善によるものです。これにより、国内の生産性の悪い設備を停止することができたことも、コスト改善につながりました。
- Q3. 第3四半期の液晶用基板ガラスの数量動向について
- A3. 当社の出荷数量としては、前四半期比で「横ばい」と見ていますが、価格は1桁の前半%の下落と見ています。市場全体では、2014年暦年で数量は前年比1桁の後半%の伸び、価格は十数%の下落となる見込みです。
- Q4. シェア拡大の動きを見せる同業他社にどのように対応するのか
- A4. 当社もシェアを拡大したい思いはありますが、そのために大きく価格を下げて取りにいく考えはありません。
- Q5. 韓国新工場における生産性改善の要因は
- A5. 韓国新工場については、日本で積み上げてきたノウハウを全て設備に織り込みました。第2期の設備は、第1期での反省点を踏まえさらに進化した設備になっており、来年以降の中国新工場（液晶用基板ガラス）についても、韓国の状況を踏まえ設備改善を進めていきます。
- Q6. 中国新工場の顧客獲得状況はどうか
- A6. LGディスプレイ（広州）が主たる顧客になりますが、それ以外の顧客にも営業活動を進めています。LGD以外にどれだけ出していけるかが勝負だと考えています。
- Q7. LGディスプレイ（広州）以外の顧客獲得に時間を要するということはないか
- A7. 同社の需要を全てカバーすれば中国新工場の6割強のキャパは販売できると見込んでいます。残りを売り切るため、第2期設備の完成までには、その他の顧客にも出荷できるよう現在営業を進めています。
- Q8. 液晶用基板ガラスの値下げ圧力の現況は
- A8. 今年に入り、4Kテレビの浸透で大型テレビの需要が増加しており、需給が締まってきた感があります。ただ、テレビセット市場では依然として価格下落は続いており、部材価格も下がる傾向にあります。ガラスについても、値下げ圧力は少し弱まってきてはいるものの、依然として続いています。

Q9. 第3四半期の液晶用基板ガラスの価格下落は、第1、第2四半期と比べレベルはどうか？

A9. 下がり方は少しマイルドになるのでは、という感触を持っています。

Q10. 前期本決算の説明会で、韓国新工場の生産改善が「2~3割」と聞いたが、今回「約2割」とのコメントになったのはなぜか？

A10. 前回との違いは、二材質の生産を始めた影響をある程度織り込んでいるためです。構造的に効率化の効果が下がっているわけではありません。

Q11. 第3四半期に減価償却費が増加するが、全て生産の効率化でカバーできるか

A11. 効率化が最も重要な要素ですが、部材調達が多様化による調達コストの削減も織り込んでおり、今年度は9カ月間で20億円程度のコスト削減を見込んでいます。また、この二者の効果の割合は、ざっくり、生産性改善が6割、調達コスト削減が4割と見ています。但し、為替影響によるエネルギーコストの動向が気になるところです。

Q12. 今期の減価償却費は、予定額の300億円に達する見込みか

A12. 予定額に近い線に着地すると見えています。

Q13. カバーガラス（化学強化専用ガラス）の今後の戦略について

A13. ハイエンドのスマホにはアルミノシリケートガラス、普及型にはソーダガラスが使われています。当社は、あくまでもハイエンド用途に限定して事業を進めていく考えです。今年、中国で普及型の格安スマホが大量に出回りましたが、今後は、ある程度ハイエンドにシフトするものと見ています。当社としても、採用機種を拡大しながら、来年、再度、ハイエンド市場で20%のシェア獲得を目指して拡販を進めていきます。

Q14. カバーガラスの価格動向について

A14. 拡大途上のマーケットのため、どうしても価格は下がる傾向にあります。しかし、生産が増えれば量産効果が出てきますので、出荷が増えれば、ある程度の価格対応ができるようになります。

Q15. 為替影響について

A15. 売上では、1円の円安で年間数億円の増収になります。主力の液晶用基板が円建て取引のため、当社の売上全体の5割程度が円建ての商売となっており、残りの部分はドルとユーロで、その割合はおよそ3対1となっています。

Q16. 液晶事業以外の部分では円安はプラスにきいているのか

A16. 売上に対してのプラス効果はありますが、原料等のコストは上がる方向です。よって、損益的には余り変動はありません（基本的にはニュートラル）。

Q17. バランスシート政策について

A17. 自己資本比率が上がっています。中国新工場への投資、マレーシアのガラスファイバの設備増強、この2件で1,000億円近い投資を予定しています。現在の財務体質は、これらを実行するために最低限必要なレベルであると考えています。今後も、機動的な投資戦略を実施できるよう自己資本比率については高いレベルを維持していく考えです。また、先々、社債の償還なども出てきますが、現在、これらの手当も念頭に置きつつ資金調達を検討しているところです。

Q18. ニプロ（株）との株式の持合いについてどう考えているか

A18. 医療用ガラスのビジネスでは、特に新興国向けで同社との相乗効果が生まれつつあります。また、技術陣同士の交流のほか、トップ同士も定期的に会って今後の事業展開などについて協議しており、当面、この関係は継続していくつもりです。従って、現時点では、同社が一方的に当社株を減らしていくことは考えにくく、当社も率先して同社の株式を減らしていくことは考えていません。

Q19. 今期の設備投資の増額修正（400億円→450億円）の要因は

A19. 韓国新工場の追加工事で約30億円の増額となりました。この他、為替の影響がありました。今年10月に韓国新工場として最後のラインが稼働しました。10月以降は、ラインの立ち上げコストのほか新工場の減価償却費が全て乗ってくることであります。

Q20. 円安が進んでいるが、これにより中国新工場への投資額はどの程度増えそうか

A20. 約700億円のプロジェクトですが、そのうち3割強は国内設備の移転でまかないます。これは現地法人が円で負担するため基本的に為替影響はありません。一方、現地コストは為替影響を受けるため為替ヘッジを考えています。

Q21. 来期の設備投資額の実額はどの程度か

A21. およそ400～500億円と見ています。

Q22. 更に円安に振れた場合、中国投資の計画に影響が出る可能性は

A22. それはありません。グローバルの液晶市場の面積成長は年率5%前後と言われていますが、中国は、5年、10年のタームで2ケタ（10%程度）の成長が見込まれる唯一の市場と見ています。しかも、ガラスは国産化が進みつつあり、今後は関税の引き上げなどにより外から製品が持ち込めなくなるおそれがあります。従って、現地生産・現地供給を基本に、計画どおりに進めていくつもりです。

Q23. カバーガラスの他用途への展開は

A23. 自動車分野等で部材の開発・提案を幅広く行っております。

Q24. カバーガラスの収益改善をどのように図っていくか

A24. カバーガラスの価格水準は、液晶用基板ガラスに比べ2～3割高く、出荷量が増えさえすれば、確実にリターンが取れると考えています。

Q25. 第3四半期の利益見通しを引き下げた要因は

A25. 一番大きな要因は液晶です。当初、第3四半期は数量が伸びてガラス需給がタイトになるため価格下落は「わずか」と予想していましたが、しかし、実際は、数量が伸びない中、価格下落が依然続いており、計画を大きく下回ってしまいました。また、カバーガラスの見込みが外れたことも大きな要因です。

Q26. ガラスファイバは、販売が好調で当初想定どおりと見ているにもかかわらず、利益は計画未達と見ているのはなぜか

A26. 引き合いが想定以上で、品種対応などのため本来稼働する予定がなかった旧式設備を稼働せざるを得ず、これが結果的に損益を下押ししました。

Q27. カバーガラスが減少とのことだが、第2四半期の数量動向はどうであったか

A27. 需要が減少し、第1四半期比で半減に近い状況でした。

Q28. 電子・情報用ガラス事業（第2四半期累計908億円）の売上高構成について

A28. 液晶用基板ガラスが約8割を占めています。残り2割のうち、電子部品が数十億円台の後半、次がカバーガラス（数十億円）となります。

Q29. 液晶用ガラスは寡占産業であるのに、値下がりが続いているのはなぜか

A29. 市場規模が小さくニッチな事業は、リターンが高くても値下げ圧力はそれほど強くありませんが、市場や売上規模が大きい事業については、ハイリターンを取るのが難しくなる傾向があると考えています。かつて、ブラウン管用ガラスも長らく寡占状態にあったのですが、当時も、テレビ価格が下がるたびにガラス価格に対しても値下げ圧力が強く働いていました。

以上

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。